

## オーディオ実験室収載

### 音源の比較試聴(35) —ワーグナーのパルシファル—

#### 1. 始めに

前報(34)に引き続き、各種音源の再生経路に関する仮想アースとアースアキュライザーや OPT ISO BOX や LAN iPurifier Pro などを含む種々の対策の効果の確認のため、各種音源の比較試聴を実施します。

#### 2. 音源の比較試聴の試聴方法と音源

アナログ関係の対策の経過は前報(27)でも述べたとおりで、配信や CD 再生の光アイソレーションなどの対策は fidata HFAS1-S10 の活用シリーズや OPT ISO BOX の導入シリーズや LAN iPurifier Pro で報告してきました。

今回、同じマスター音源のアナログ盤と STAGE+からの配信を比較試聴します。

アナログ盤は下記を使用します。

リヒヤルト・ワーグナー パルシファル

ドイツグラモフォン 00MG 0086/90

ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮ベルリンフィル

配信は STAGE+から上記と同一の曲を選択します。

リヒヤルト・ワーグナー パルシファル

ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮ベルリンフィル

それぞれの音源は、下記の経路で聴いていきます。

アナログ盤

LINN LP-12→ZANDEN Model 12→Brooklyn DAC+→TruPhase

STAGE+

ルーター→スイッチングハブ→PC→Brooklyn DAC+→TruPhase

#### 3. 音源の比較試聴結果

アナログ盤は、レーベルに対応したイコライザー特性で聴いていきます。

この盤は 1979 年から 1980 年にかけてのデジタル録音で、演奏は第 3 幕 4 時間をこえる大曲です。デジタル録音らしく、エッジのたった切れの良い音で、静かな表情の主題から、迫力のあるシーンまでカラヤンの演出が際立ちます。とりわけワーグナー歌手達の豊かな声量のダイナミックな歌唱力が聴きどころです。

STAGE+の配信は、受信画面に各パートの紹介が現れますので、曲の進行を理解する助けになります。

## 舞台神聖祭典劇《パルジファル》

### 1 前奏曲

## 舞台神聖祭典劇《パルジファル》 / 第1幕

2 おい！ おい！ 森の番人たち

3 それでよい！ - ありがとう！ - 少し休むとしよう

4 感謝しないで下さい！ - はっは！ お礼なぞ何もなりません

5 おお、傷をもたらす奇蹟の神聖なる槍よ！

6 敬虔なる先王ティトゥレルは

7 かわいそうに！ …こんなひどいことをしたのは何者だ！

8 では言いなさい！ お前は私の尋ねることを何も知らないが

9 王が浴みより帰って来る

10 場面転換の音楽

11 お前がまだどんな智を持っているにしても

12 我が息子アンフォルタス、お前は席についているか？

13 聖杯の覆いをとれ！

14 かつて聖杯の主は

## 舞台神聖祭典劇《パルジファル》 / 第2幕

15 前奏曲： 時が来たのだーわが魔法の城はあの愚か者を今やおびき寄せるのだ

16 ああ！ - ああ！ 真夜中！

17 さわがしい音はここだった！

18 おいで！ おいで！ やさしい坊や！ [花の乙女たちの踊り]

19 パルジファル！ - とどまりなさい！

20 これらすべて私は夢を見たのだろうか？

21 私はあの子が母の胸にすがるのを見た [クンドリの語り]

22 ああ情けない！ 私は何をしたのだ？ 私はどこにいたのだ？

23 アンフォルタス！ - あの傷！ - あの傷

24 残酷な人よ！ あなたは心の中に他の人の苦しみを感じるというなら

25 消え失せよ、汚れたる女！

## 舞台神聖祭典劇《パルジファル》 / 第3幕

### 26 前奏曲

27 向こうに呻き声が聞こえたが

28 今日は、客人！

29 あなたに再び会うことの出来る幸い！

30 正しい道からそなたを追い放ったのが呪いであっても

31 いや、そうするのではない！ 聖なる泉そのものがこの巡礼者に力を与える

32 清き人よ、清らかな水の祝福を受けよ！ [聖金曜日の音楽]

- 33 いや、ご覧の通り、そうではない  
34 真昼時 - いよいよその時刻となった  
35 厄子に収められた聖杯を我々は聖なる勤めへと運び行く  
36 悲しや！ 悲しや！ この身の上  
37 ただ一つの武器だけが  
38 至高の救済をもたらす奇蹟よ！

STAGE+の配信は、マスターがディジタル録音のせいか、アナログ盤の印象に非常に近似していますが、やや音の厚みのようなものが後退します。

#### 4.まとめ

アナログ再生、STAGE+からの配信を比較してみましたが、これまでの対策で、すべてにおいてレベルが向上しており、以前のような格差がなくっており、アナログ盤は、ディジタル録音らしく、エッジのたった切れの良い音で、とりわけワーグナー歌手達の豊かな声量のダイナミックな歌唱力が聴きどころです。STAGE+の配信は、マスターがディジタル録音のせいか、アナログ盤の印象に非常に近似していますが、やや音の厚みのようなものが後退します。

以上